

支倉常長フェロー報告

提出日 2012年 10月 9日



申請者	氏名	近藤 敬一
	所属・職	分子代謝病態学分野 医員
出張期間	2012年 9月 29日 ~ 10月 7日	
渡航先	ベルリン	
渡航目的	学会参加	
発表演題名あるいは共同研究課題名	Bach1 deficiency protects pancreatic beta cells from oxidative stress injury	

得られた成果など

10月1日～5日に開催された「48th Annual Meeting of the European Association for the Study of Diabetes (EASD)」に支倉フェローで参加させていただきました。EASDは欧州最大の糖尿病学会であり、今年は参加者約18,000人、2307の演題申込中1270演題が採択され、口頭発表は264演題でした。今回、名誉なことに口演する機会を与えられ、Bach1欠損マウスでの膵β細胞保護作用を中心に今までの研究成果を発表しました。Bach1と糖尿病に関する発表は世界で初めてであり、関心を持って聞いていただきました。時間の関係で2つの糖尿病モデルを用いた研究しか紹介できませんでしたが、会場からは他の糖尿病モデルでの結果についてやβ細胞保護のメカニズムに関する質問が寄せられ、答えていく中で新しいアイデアも与えられました。



学会では様々なテーマで発表があり、糖尿病や合併症の病態に関する数多くの新知見、大規模疫学の最新情報、新薬の開発 (GLP-1 agonist + steroid の conjugate が個人的には最も惹かれた)、日本でも今後発売予定の新薬の最新データ、各国の厳しい経済状況での治療や研究の模索の紹介、EU内各国の協力状況など幅広く学ばせていただきました。今後の研究に応用できる大小様々な発見がありました。

展示ブースでは胃-小腸短絡手術を mimic するチューブ付きの留置ステントや Raman 効果を応用した非侵襲的 CGM を見て衝撃を受けました。現在は欧州でのみ販売予定だそうです。アジアも負けてはられないと刺激を受けました。

学会終了後、今回の発表にちなんで市内の「Bach」通りを見にいたり、現在ベルリンフィルで働いている旧友と親交を深めたりと楽しい時間も過ごしました。



Bach通りと Haydn通り



パュー君と清水さん